

種籾の過酸化石灰粉衣による 湛水直播栽培の特許について

湛水直播栽培の欠点である発芽・芽立ちの不良を酸素発生剤過酸化石灰の種籾粉衣により解決する湛水直播栽培法は、今後の稲作生産性向上のための新技術として、期待がかけられている。しかし、この新技術が農業技術研究所の基礎研究に源を溯れることを知る人は少ないと思う。

戦後、水害等災害が多く、その対応として同生理遺伝部に生理第5研究室が新設され、稲の冠水害の発生機構が解明されたが、そのとき山田登博士により、水害の軽減資材として過酸化石灰の効果が発見された。その後、同研究室は生育調節剤の研究を担当し、太田保夫博士は同剤の種子粉衣が、発芽促進効果の大きいことを発見した。それで、私のすすめで「水稻種子発芽促進法」発案者太田保夫・出願者農業技術研究所長で昭和44年特許申請し、昭和47年認可された。昭和46～53年、当協会で実用化試験が行なわれ、その審査結果により保土谷化学が登録申請し、昭和56年に生育調節剤第1号として農薬登録された。また、石川県農業短大の中村喜彰氏により、焼石膏を混じて粉衣する方法が考案されて技術の精度が高まり、さらに播種直後使用の除草剤ピラゾレート等の開発で、その実用性が一段と高まったことはご存じの通りである。

今やこの技術は、国際稲研究所の生理部長吉田昌一博士の推賞もあって、フィリピン・タイ・マレーシアでも実用化試験が行なわれ、安定多収、コストダウンの技術として、世界の注目を集めている。

基礎研究の副産物のうちには、独創的な新技

目 次 (第16巻第8号)

キシュウスズメノヒエおよび同亜種の生態と防除	2
＜福岡県農試筑後分場 大隈光善＞	
1. はじめに	2
2. 形態	2
3. 生態	3
4. 防除法	5

中晩柑類の栽培と品質向上	7
＜鹿児島県果樹試験場 藤崎 満＞	
1. はじめに	7
2. 中晩柑類栽培の動向	7
3. 品質向上対策	8
4. 植物調節剤への期待	11

昭和57年度ベンチオカーブ剤の薬害防止効果に関する試験概要	11
＜農業研究センター 宮原益次＞	
1. 研究計画の概要	13
2. 試験結果の概要	14
3. まとめ	16

昭和55年度非農耕地用除草剤試験成績概要	17
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	

術のシードとなりうるものも少なくないと考えられるので、研究者の情熱と努力を期待する。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
東京農業大学教授 馬場 起〕